かながわのみちづくり

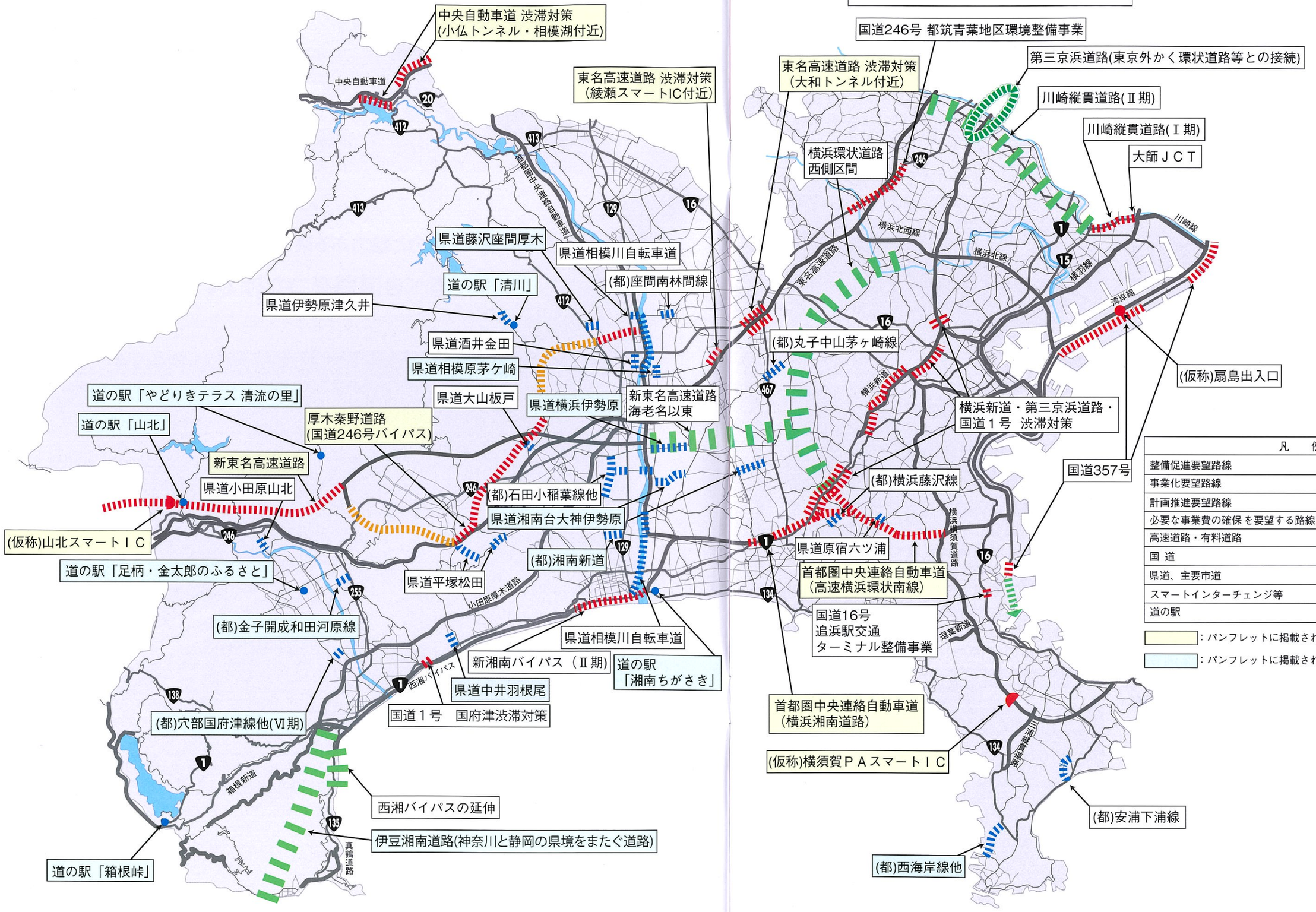
災害に強く、活力と魅力ある県土の実現をめざし

つながるべき道路をつなげていく



新東名高速道路　山北天空大橋（令和８年９月撮影）

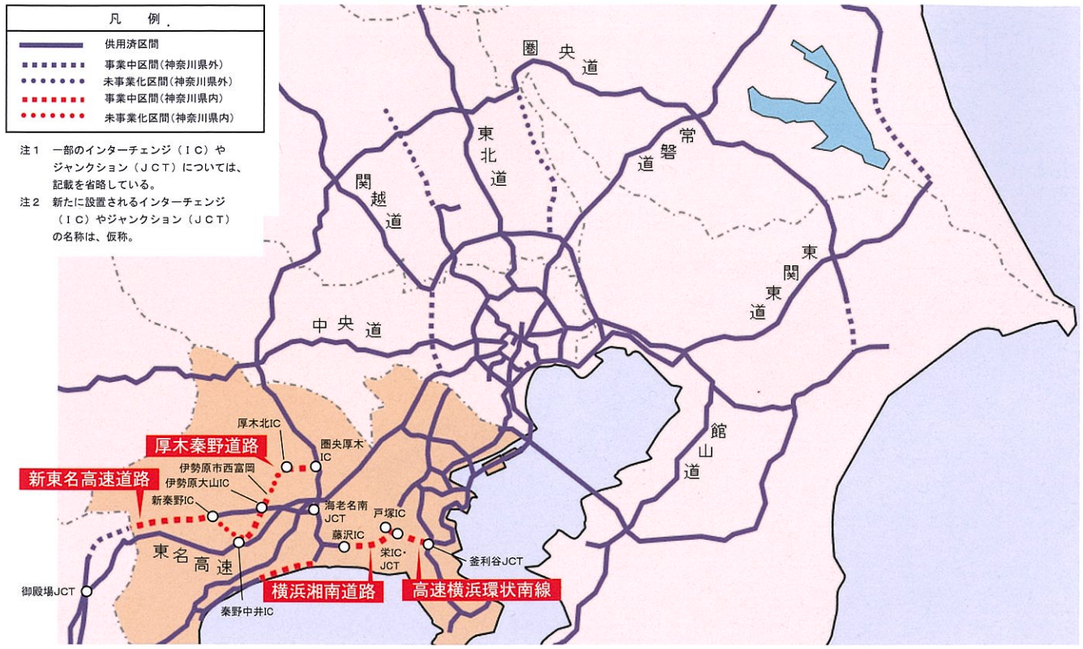
路　線　等　位　置　図



凡　例	
整備促進要望路線	
事業化要望路線	
計画推進要望路線	
必要な事業費の確保 を要望する路線	
高速道路・有料道路	
国 道	
県道、主要市道	
スマートインターチェンジ等	(フル) (ハーフ)
道の駅	

：パンフレットに掲載されている自動車専用道路

：パンフレットに掲載されている一般幹線道路等



首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

圏央道は、都心から約40km～60kmの位置で、東名高速道路などの放射状道路をつなぐ環状道路です。

この道路は、沿線都市間の連絡を強化するほか、都心部へ流入する交通を適切に分散し、道路交通を円滑化することにより、経済活動の活性化、観光地の発展、周辺地域の環境改善等に寄与する重要な道路です。

圏央道の神奈川県内区間は、「さがみ縦貫道路」「新湘南バイパス」「横浜湘南道路」「高速横浜環状南線」の４路線で構成されており、このうち、さがみ縦貫道路は平成27年３月に全線が開通しました。

また、令和８年11月の千葉県区間（大栄JCTから多古IC）の開通により、現在、圏央道は全体の９割が供用されており、神奈川県では、北関東方面などからの観光客の増加や、沿線地域における企業立地の促進など、多様な整備効果が発揮されています。（P8、9、10）

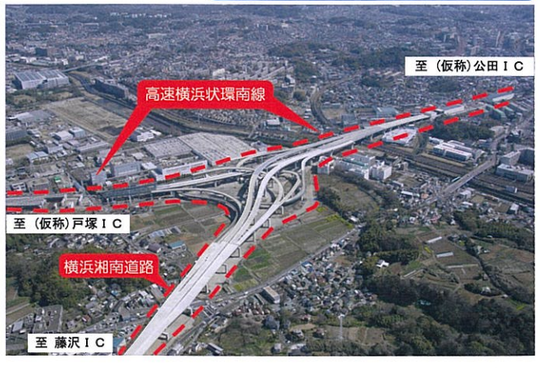
こうした効果をさらに高めていくためにも、横浜湘南道路や高速横浜環状南線の早期整備が望まれています。

横浜湘南道路・高速横浜環状南線

横浜湘南道路と高速横浜環状南線は、さがみ縦貫道路などと一体となって、横浜の湾岸エリアや三浦半島と湘南・県央地域の連絡を強化する重要な道路です。

横浜湘南道路は（仮称）栄IC・JCTから藤沢ICまでの約7.5kmの区間、高速横浜環状南線は釜利谷JCTから（仮称）戸塚ICまでの約8.9kmの区間で、全線にわたり工事が実施されています。

（仮称）栄ＩＣ・ＪＣＴ周辺の整備状況



新東名高速道路

新東名高速道路は、首都圏と中京圏を結ぶ大動脈であるとともに、神奈川県内の都市間を結ぶ東西軸を形成する路線です。この道路は、慢性的な交通渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保し、また、地震などによる災害発生時の緊急輸送道路や、東名高速道路の維持管理・更新時の代替路としての役割を果たす重要な道路です。

令和４年４月までに、海老名南JCTから新秦野ICまでの約21kmの区間が開通しました。現在、新秦野ICから新御殿場ICまでの約25kmの区間について、全線にわたり工事が進められています。

また、一層の物流の効率化を図るための全線６車線化の早期実現や、計画ルートが未定である海老名南JCT以東の計画の具体化を図ることが望まれています。

やどりき双扇橋（中津川橋）



（仮称）山北スマートＩＣ



厚木秦野道路（国道246号バイパス）

厚木秦野道路（国道246号バイパス）は、国道246号の慢性的な交通混雑の緩和を図るとともに、新東名高速道路などと一体となって高速道路ネットワークを強化し、地域の活性化に寄与する重要な路線です。

全線延長約29kmのうち、圏央厚木ICから（仮称）厚木北IC、伊勢原市西富岡から秦野中井ICまでの区間約14kmが事業化されており、現在、用地取得や埋蔵文化財調査、工事などが実施されています。

（仮称）伊勢原北ＩＣ付近イメージ図



伊勢原第一トンネルの施工状況



自動車専用道路の渋滞対策

東名高速道路と中央自動車道は、三大都市圏を結ぶ大動脈であるとともに、本県においては、県外に開かれたネットワークを形成する重要な道路です。しかしながら、東名高速道路の大和トンネル・綾瀬スマートIC付近や中央自動車道の小仏トンネル付近などでは、交通容量不足等により慢性的な渋滞が発生しています。

こうした中、高速道路ネットワークの機能を最大限発揮させるため、東名高速道路では、令和4年11月までに、大和トンネルを含む区間の拡幅や、横浜町田IC下り線の加速車線の延伸が完成し、残る区間については、現在、工事が進められています。

また、中央自動車道では、小仏トンネル付近の上り線及び相模湖付近の下り線について、付加車線設置による渋滞対策が事業化され、現在、工事が進められています。

東名高速道路　綾瀬スマートIC付近上り線混雑状況



中央自動車道　小仏トンネル付近上り線混雑状況

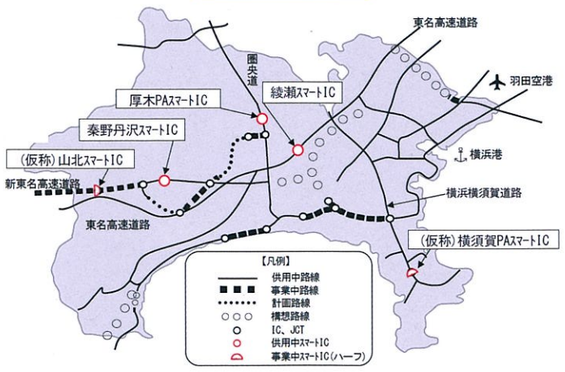


スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジは、高速道路の利便性を向上させ、物流の効率化や観光振興のほか、医療機関へのアクセス向上、災害時における物資輸送ルートの確保など、地域の活性化や防災力強化に寄与する施設です。

本県では、令和4年4月までに、厚木PAスマートインターチェンジ、綾瀬スマートインターチェンジ、秦野丹沢スマートインターチェンジが開通し、現在は（仮称）山北スマートインターチェンジ、（仮称）横須賀PA スマートインターチェンジの2箇所でスマートインターチェンジ設置に向けた取組が進められています。

県内のスマートＩＣ



厚木ＰＡスマートＩＣ





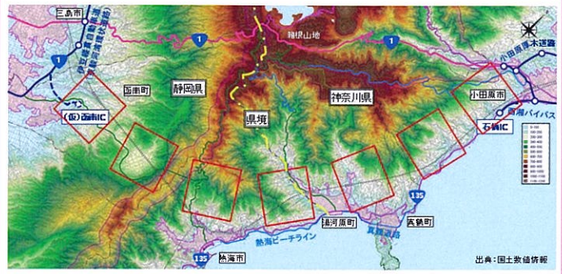
綾瀬スマートＩＣ

伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）

伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）は、東名・新東名高速道路などと一体となって強靭な広域道路ネットワークを形成し、広域周遊観光の促進などの地域経済の活性化に寄与するとともに、災害時の救急救命や支援物資の運搬を支え、人々の命とくらしを守る役割も担う、「第3の東名」とも言える重要な道路です。

現在、この道路の計画の具体化に向けた取組を進めています。

伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）位置図

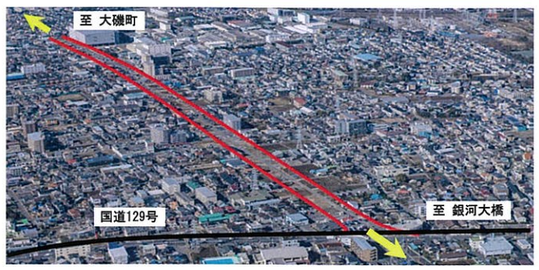


都市計画道路 湘南新道

都市計画道路湘南新道は、湘南地域における東西方向の交流連携の強化を図るとともに、圏央道への接続道路となる、4車線の幹線道路です。

このうち相模川から国道129号までの区間は、平成19年度までに整備が完了しており、現在、その西側に続く区間の整備を進めています。

平塚市東真土～西真土付近整備状況



県道横浜伊勢原

県道横浜伊勢原は、横浜市を起点とし藤沢市、綾瀬市、海老名市、厚木市を経て伊勢原市の国道246号に至る東西方向を繋ぐ4車線の幹線道路です。

このうち用田橋際交差点から東側の区間、国道129号から西側の区間はすでに完成しており、令和8年度には、用田橋際交差点から国道129号方面の一部区間を供用したところです。引き続き、海老名市域の整備を進めています。

用田橋際交差点付近整備状況



県道湘南台大神伊勢原

県道湘南台大神伊勢原は、湘南地域の北部で新たな東西軸を形成する4車線の幹線道路であり、圏央道寒川北IC、藤沢市北部の工業団地や東海道新幹線新駅の誘致地区を中心としたツインシティへのアクセスを強化する道路として整備を進めています。

さらに、令和6年度からは、湘南台駅付近から西側区間について、新たに4車線化する整備に取り組んでいます。

県道湘南台大神伊勢原位置図



都市計画道路 西海岸線他

都市計画道路西海岸線は、三浦半島地域の渋滞緩和や災害対応力の強化を図るため、半島南端の三崎港付近を起点とし、小網代湾を跨いで国道134号の三崎口駅付近を終点とする幹線道路です。

このうち起点から県道油壺までの区間は完成しており、残る終点までの区間については、令和7年度から用地取得に着手し、令和8年度には工事に着手するなど整備を進めています。

(仮称)小網代大橋イメージ図



県道藤沢座間厚木

県道藤沢座間厚木は、県央地域を東西に結ぶ幹線道路で、厚木市中心部の混雑緩和や、圏央道へのアクセス強化を図るため、国道129号から国道412号までの区間を4車線で整備しています。

このうち国道129号から中津川を渡河する区間は整備が完了しており、現在、その西側の県道63号までの区間について、令和9年度末の供用を目指して、整備を進めています。

厚木市三田付近高架部整備状況



県道中井羽根尾

県道中井羽根尾は、県西地域を南北に結び、西湘バイパスの橘ICや工業団地へのアクセス強化による地域の活性化とともに、地域交通の安全性の向上を図る幹線道路です。

このうち、工業団地の北側区間については、整備が完了しており、現在、南側区間の整備を進めています。

小田原市羽根尾付近イメージ図

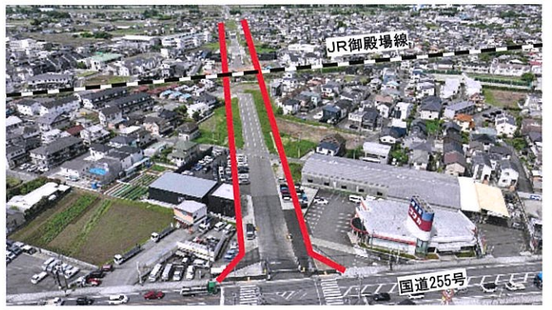


都市計画道路　金子開成和田河原線

都市計画道路金子開成和田河原線は、都市計画道路和田河原開成大井線と一体となって、大井町、開成町、南足柄市を東西に貫く幹線道路です。

JR御殿場線との交差箇所は立体化する計画であり、県西地域の交通渋滞の緩和や防災機能を強化するとともに、地域経済の活性化に寄与する道路として、整備を進めています。

大井町金子付近整備状況

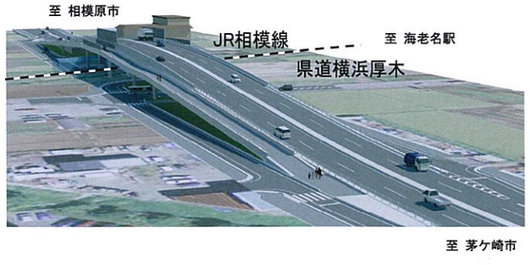


県道相模原茅ケ崎（上郷立体）

県道相模原茅ケ崎は、相模川の東側を南北に結ぶ4車線の幹線道路です。

JR相模線及び県道横浜厚木との交差箇所を立体化する計画であり、海老名駅周辺地域の交通円滑化や圏央道の海老名ICへのアクセス強化を図る道路として、整備を進めています。

海老名市上郷付近イメージ図



都市計画道路 穴部国府津線他（Ⅵ期）

都市計画道路穴部国府津線は、地域間の連携強化や小田原市中心部の混雑緩和を図るため、小田原市府川の県道小田原山北から、国道255号を経て、小田原市国府津の国道1号付近を結ぶ幹線道路です。

Ⅵ期区間は、狩川を渡河し、伊豆箱根鉄道大雄山線及び小田急小田原線の2つの鉄道を高架橋で横断する計画で、地域間の連携強化を図る道路として、整備を進めています。

小田急小田原線高架橋イメージ図



道の駅

道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに活力ある地域づくりを行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設として誕生しました。近年では、3つの機能に加え、観光・防災などの多様な機能を備えた拠点となっています。

本県では、令和7年7月に道の駅「湘南ちがさき」が開所し、さらに令和8年11月には道の駅「やどりきテラス　清流の里」が開所したことで、県内の道の駅は6つになりました。

神奈川県は、道の駅の設置・運営に取り組む市町村を支援し、整備を促進しています。

県内の道の駅位置図



道の駅「湘南ちがさき」



道の駅「やどりきテラス　清流の里」



国土強靱化（老朽化・防災）対策

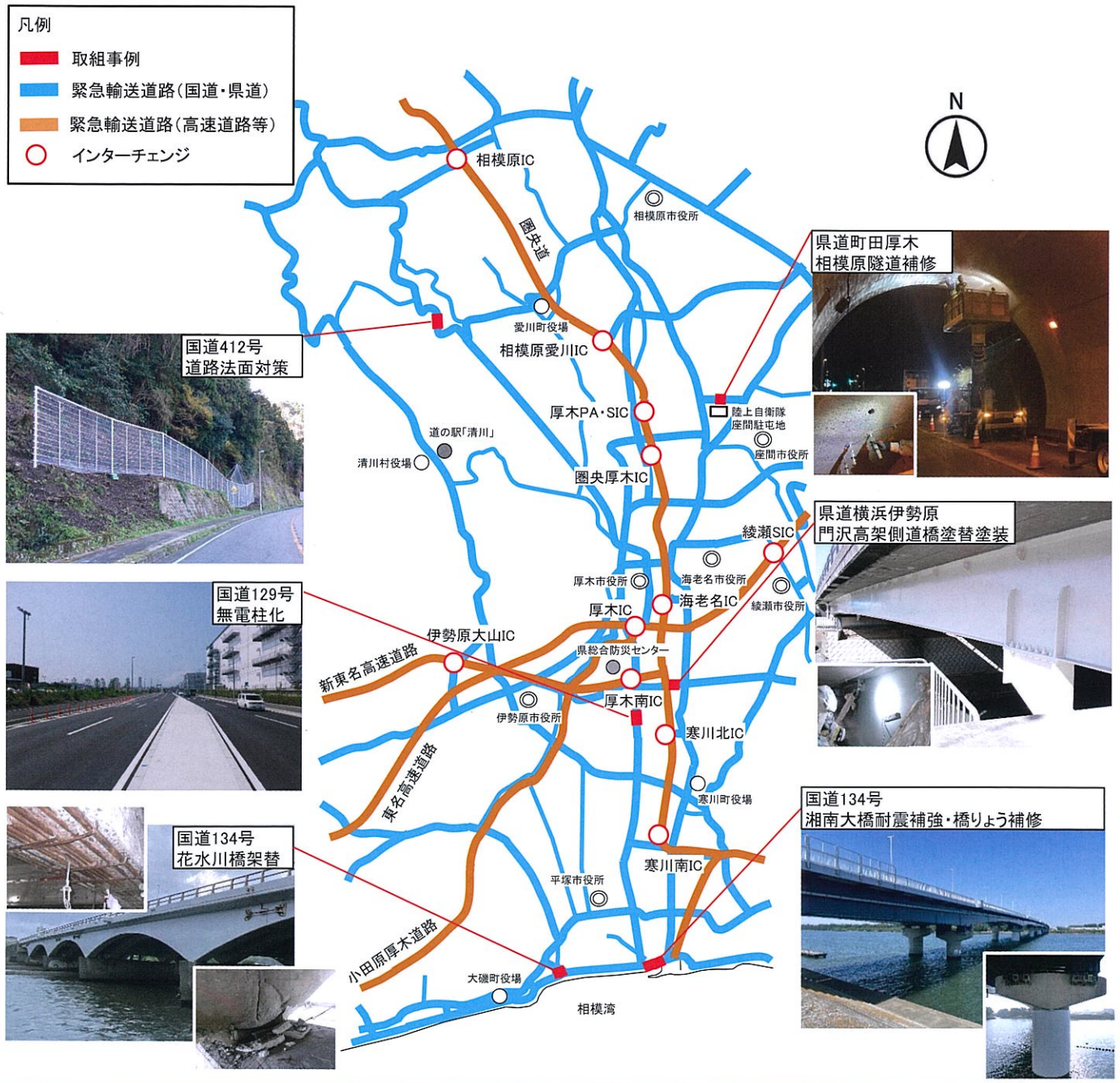
首都直下地震などの大規模災害の発生時に、救急救命活動や復旧活動等を支え、支援物資等の輸送を円滑かつ確実に行うために、緊急輸送道路の老朽化、防災対策を優先して進めています。

特に、近年の激甚化する災害に対応するため、国の「第1次国土強靱化実施中期計画」に基づき、災害時に国民経済・生活を支える道路の機能を維持できるよう、橋りょうの耐震補強等の防災対策を集中的に進めています。

県央・湘南地区における取組事例

東名高速道路や圏央道は、広域的な道路ネットワークを形成し、災害時には、全国からの支援物資の輸送など、重要な役割を担う道路です。

これらの道路と接続する国道や県道において、橋りょうの耐震補強、道路法面対策や無電柱化等を実施しています。

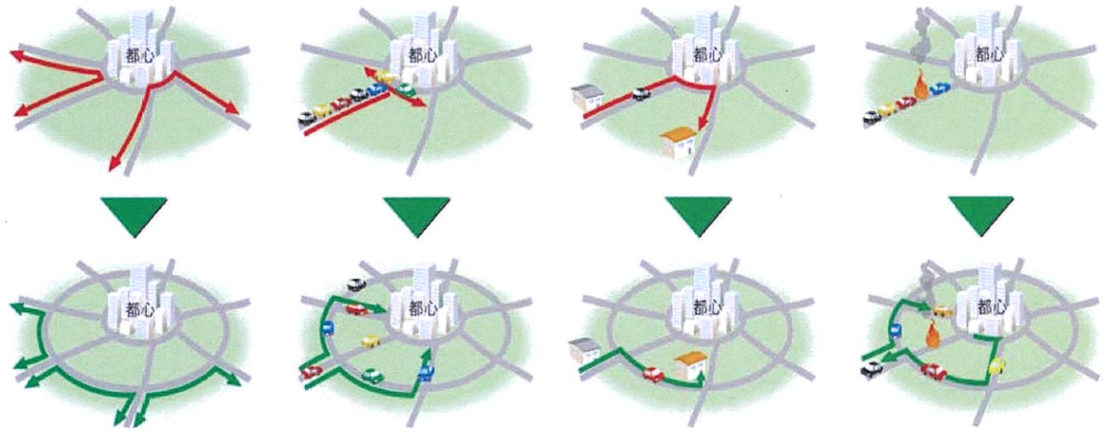


道路整備の効果

道路の整備により、移動時間の短縮や渋滞緩和、沿線地域の観光振興や企業活動の活性化など、様々な効果が発揮されています。

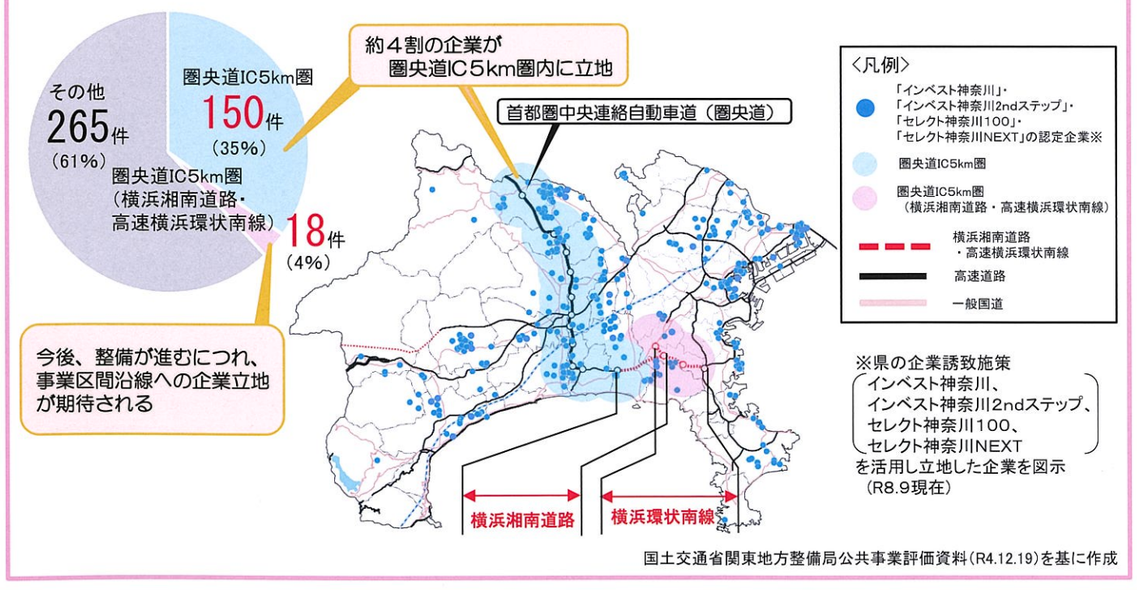
圏央道を含む三環状道路の役割

通過交通の抑制	分散導入効果	地域間移動	非常時の迂回機能
通過交通の都心部流入を抑制する	郊外から都心部への交通を分散誘導する	周辺地域間の移動が直接できる	災害や事故などで一部区間の不通があっても速やかに迂回できる



圏央道

圏央道など自動車専用道路の沿線を中心に工場や研究施設が立地



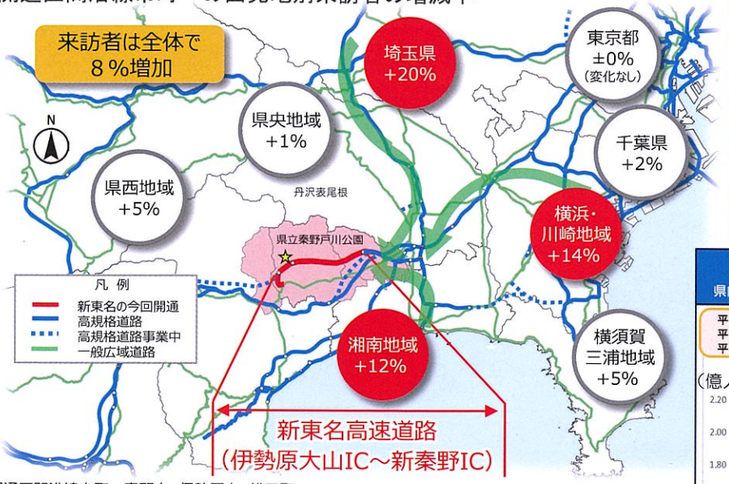
国土交通省関東地方整備局公共事業評価資料（R4.12.19）を基に作成

圏央道・新東名高速道路

観光施設の来訪客が増加し賑わいアップ

- 新東名高速道路の伊勢原大山ICから新秦野ICまでが開通後、埼玉県や横浜・川崎地域などの都心近郊から開通区間沿線市町への 来訪者数が10%以上増加しており、 広域からの誘客増が図られています。

■開通区間沿線市町への出発地別来訪者の増減率



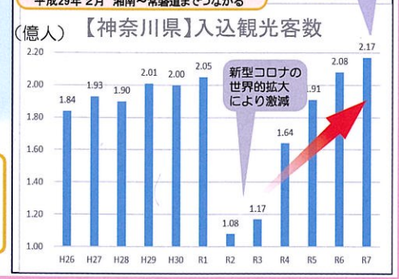
開通区間沿線市町：秦野市、伊勢原市、松田町



県全体の観光客数が増加!!
県内のR7年度の入込観光客数が2億1736万人で過去最高に!

平成27年 3月 湘南～関越道までつながる
平成27年10月 湘南～東北道までつながる
平成29年 2月 湘南～常磐道までつながる

R7過去最高を更新



≪観光施設の声≫

新秦野ICからのアクセスが近くなったことにより、東京・県央方面から往来する来園客から大変好評です。

中日本高速道路㈱ 記者発表資料(R5.4.14)を基に作成

新東名高速道路

地方創生に向けた取組への貢献 ～沿線の土地開発の促進～

○新東名（海老名南JCT～御殿場JCT）沿線の自治体では、新東名整備に伴い、インターチェンジを中心とした地域の今後の土地利用計画を立案し、開発を推進。
○新東名の開通が、沿線自治体の地方創生に向けた取組みに貢献。

<新東名IC周辺の土地利用計画>



No.	取組み	地域名
①	伊勢原大山インター土地区画整理事業	伊勢原市
②	東部第二土地区画整理事業	
③	羽根森林資源活用拠点（仮称）における土地利用構想	秦野市
④	秦野ＳＡ周辺土地利用構想、戸川地区の土地区画整理事業	
⑤	秦野市の企業立地及び施設再整備の優遇制度	
⑥	（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想	山北町
⑦	（仮称）小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業推進区域	小山町
⑧	再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域	
⑨	東名高速道路足柄サービスエリア周辺を広域都市交流拠点とした土地利用事業推進区域	
⑩	リバーガーデンタウンおやま宅地造成事業推進区域	
⑪	御殿場市新東名等IC周辺土地利用構想	御殿場市
⑫	板妻南工業団地開発推進区域	

※沿線自治体HPより新東名沿線の取組みを抜粋

①伊勢原大山インター土地区画整理事業



⑦(仮)小山ＰＡ・スマートＩＣを活用した地域産業集積事業



【沿線自治体の声】(ヒアリング先：秦野市)
企業進出に係る相談・問合せが増加しており、これまでの新東名高速道路の開通により、
市内事業者から事業がしやすくなったとのお声もいただいている。
新秦野IC～新御殿場ICについても、**企業誘致や雇用創出による地域経済活性化への寄与を期待**している。

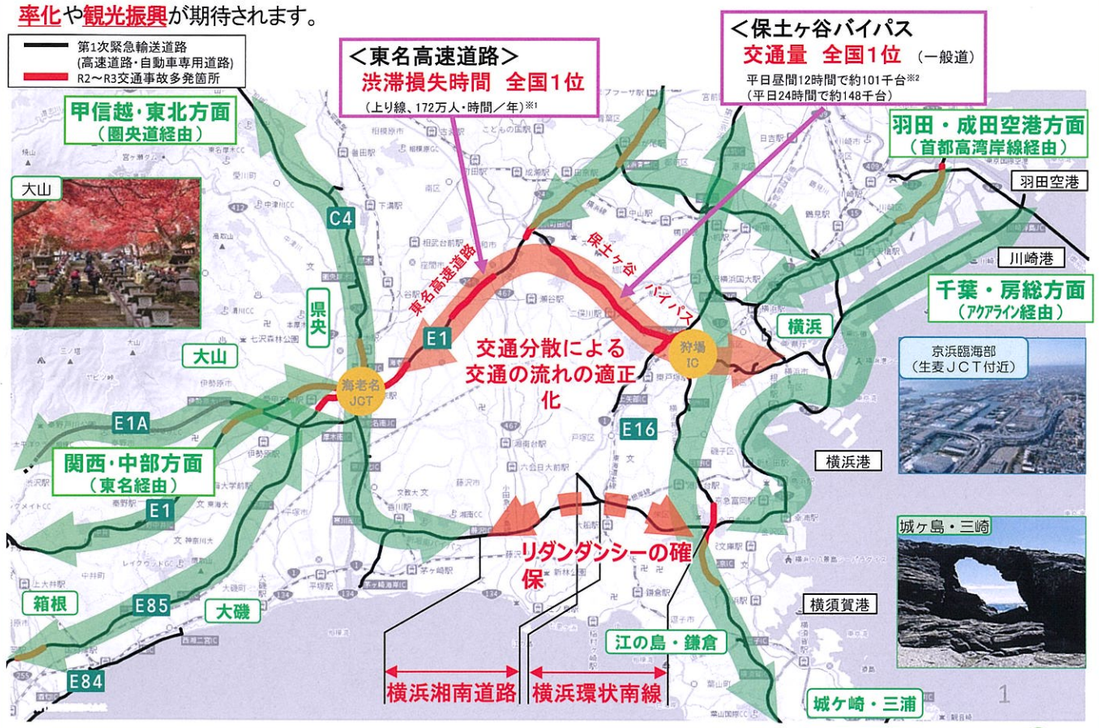
中日本高速道路㈱ 第二東海自動車道事業評価資料(R7.12)を基に作成

圏央道〔横浜湘南道路・高速横浜環状南線〕

現在、県内では、圏央道の一部である横浜湘南道路・高速横浜環状南線の整備が進められており、この道路は、様々な分野での活用が期待されています。

時間短縮・災害対応力の強化・物流の効率化・観光振興に期待

- 横浜湘南道路と高速横浜環状南線が整備されると、横浜・三浦半島地域と県央・湘南地域等の連携が強化され、**移動時間の短縮**や**交通混雑の緩和**が図られます。
- さらに、広域的な道路ネットワークが形成され、災害時における**リダンダンシーの確保**、定時性向上等による**物流の効率化**や**観光振興**が期待されます。

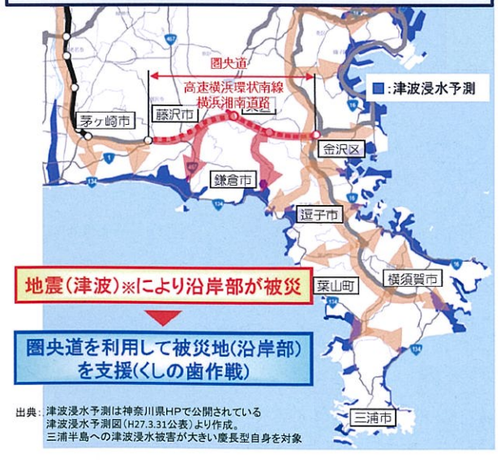


この道路が開通すれば、保土ケ谷バイパスや国道1号の渋滞が緩和されるとともに、移動ルートの選択肢が増えます。会社は県央地域にありますが、関連会社が横浜市神奈川区にあり、また、顧客や仕入先が横浜市金沢区にあるため、早期の開通に期待します。(製造業)



※1：平成31・令和元年渋滞ワーストランキングより　※2：R3センサスより(一般道全国1位は12時間交通量)

津波により被災した場合の救援ルートの確保



出典：津波浸水予測は神奈川県HPで公開されている津波浸水予測図(H27.3.31公表)より作成。
三浦半島への津波浸水被害が大きい慶長型自身を対象

三浦半島へのアクセス強化による地域活性化



国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所事業概要を基に作成

三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間、はこね金太郎ライン

三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間（約1.9km）は、令和２年８月に供用を開始し、Ⅰ期区間とあわせて三浦市域と横須賀市域が結ばれたことにより、移動時間の短縮や、周辺道路の渋滞緩和が図られました。

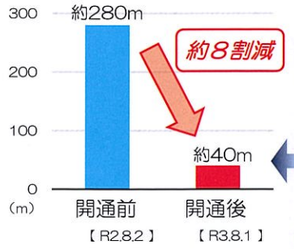
はこね金太郎ライン(県道矢倉沢仙石原)は、既存の林道を活用し、南足柄市と箱根町を結ぶ延長約10.9kmの道路で、令和３年４月に供用を開始しました。県西地域に新たな道路ネットワークが誕生したことで、観光地へのアクセスが向上しました。



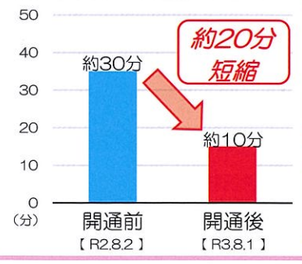
三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間の整備効果（移動時間の短縮、渋滞緩和）



■渋滞長調査
（三浦縦貫道林入口交差点(下り)の渋滞長）



■移動時間調査
（初声小学校入口交差点～衣笠IC）





三浦市から横須賀市までの移動時間が短縮
並行する国道134号の渋滞が緩和

道路利用者の声（消防関係者）
開通区間を利用することで、搬送時間が短くなったことを実感しています

はこね金太郎ラインの整備効果（移動時間の短縮）





※高速道路80km/h、一般道路30km/hとして算出

道路利用者の声
箱根までの移動時間が短縮したことで、箱根がグッと近くなりました

東名高速道路「大井松田ＩＣ」から箱根町仙石原(仙石原交差点)までの移動時間が短縮

発行元

神奈川県道路利用者会議
道路整備促進期成同盟会神奈川県協議会
神奈川県都市計画街路事業促進協議会
首都圏中央連絡道路建設促進期成同盟会
新東名高速道路建設促進期成同盟会
神奈川東部地区高速道路網整備促進協議会

写真提供

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所
東日本高速道路株式会社
中日本高速道路株式会社
首都高速道路株式会社

問合せ先

神奈川県県土整備局道路部道路企画課
〒231－8588
神奈川県横浜市中区日本大通１
ＴＥＬ　045－210－6406

2026.11